

ACP の段階における現状や課題とは？

第一段階(一般的な ACP)

比較的健康的な段階の本人が、これまでの人生を振り返り、自身の将来の希望について、家族等と話し合うプロセス

第二段階(病気や病状に応じた ACP)

病気や症状の進行に応じて本人・家族等と、医療・介護・福祉等の専門職が話し合い、本人の価値観や意向を反映した医療・ケアの提供を検討するプロセス

第三段階(死が近づいたときの ACP)

人生の最終段階において、本人の意思や希望を尊重した医療・ケアを提供するためのプロセス

○比較的健康的な段階における一般的な ACP の普及啓発状況

厚労省が2023年に公表した調査結果によると、「よく知っている」と回答した国民は 59%で、5年前とほぼ変わっていないのが現状です。

○医療・介護・福祉の現場における ACP の実践状況

「死が近づいたときの ACP」が中心で、各医療機関等が作成したツールの活用が多いと考えられます。2024年診療報酬改定では「入院料通則」に「意思決定支援」が盛り込まれ、各医療機関における適切な意思決定支援の指針を定めることとなりました。

○病気や病状に応じた ACP の実践状況

持病や慢性疾患を持つ者への「病気や病状に応じた ACP」は、患者の準備状態(レディネス)に合わせる事が重要だが、まだ浸透しておらず、それに対応したツールも少ないと考えられます。

参考HP

厚生労働省「人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査:調査結果」
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/saibunryou.html> 2025/6/27 アクセス

静岡県医師会「人生の最終段階の療養場所の選定における意思決定の現状調査」
<https://ssc.shizuoka-med.or.jp/area/data/> 2025/6/27 アクセス

参考文献

木澤義之:「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」と意思決定支援のプロセス, 看護管理 Vol.30 No.2 p.108-112, 2020, 医学書院.

木澤義之:アドバンス・ケア・プランニング(ACP)とは何か, 看護管理 Vol.30, No.2, p.113-116, 2020, 医学書院.

シズみんシートと

市町の ACP ノート(エンディングノート)の違いは？

	シズケア*ささえあい 連携シート	市町の ACP ノート
内容	医療・介護・福祉関係者等(以下、専門職等)が連携して、日頃からご本人・ご家族等の想いに心をよせ、意思決定を尊重して医療やケアの様々な場面に活かすためのツール	一般市民が、概ね健康なうちから、これまでの人生を振り返り、残りの人生をどのように生きていきたいか、 ACP を考える きっかけとするツール
対象者	慢性疾患管理を要する 段階にある者	比較的健康な段階にある者
開始の 時期	ACPの三段階の第二段階を想定 (病気や病状に応じた ACP)	ACPの三段階の第一段階を想定 (比較的健康なうちから考える 一般的な ACP)
開始の きっかけ	かかりつけ医の勧めを想定 専門職等からの開始も可	本人の意思を想定 家族等・周囲からの勧めも可
記載者	専門職等がメイン	本人がメイン
保管 方法	ファイリング形式 (市町の ACP ノートも収納可能) 本人保管にて受診時などに持参	ノート形式 本人保管

ACPの三段階：(第一段階)一般的な ACP、(第二段階)病気や病状に応じた ACP、(第三段階)死が近づいた時の ACP

参考文献

木澤義之：「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」と意思決定支援のプロセス，
看護管理 Vol.30, No.2 p.108-112, 2020, 医学書院。

木澤義之：アドバンス・ケア・プランニング(ACP)とは何か, 看護管理 Vol.30, No.2, p.113-116, 2020, 医学書院。

シズケア*ささえあい連携シートと市町のACPノート (エンディングノート) 運用フローチャート

